

都市再生整備計画 事後評価シート

善光寺表参道地区

令和5年3月

長野県長野市

様式2ー1 評価結果のまとめ

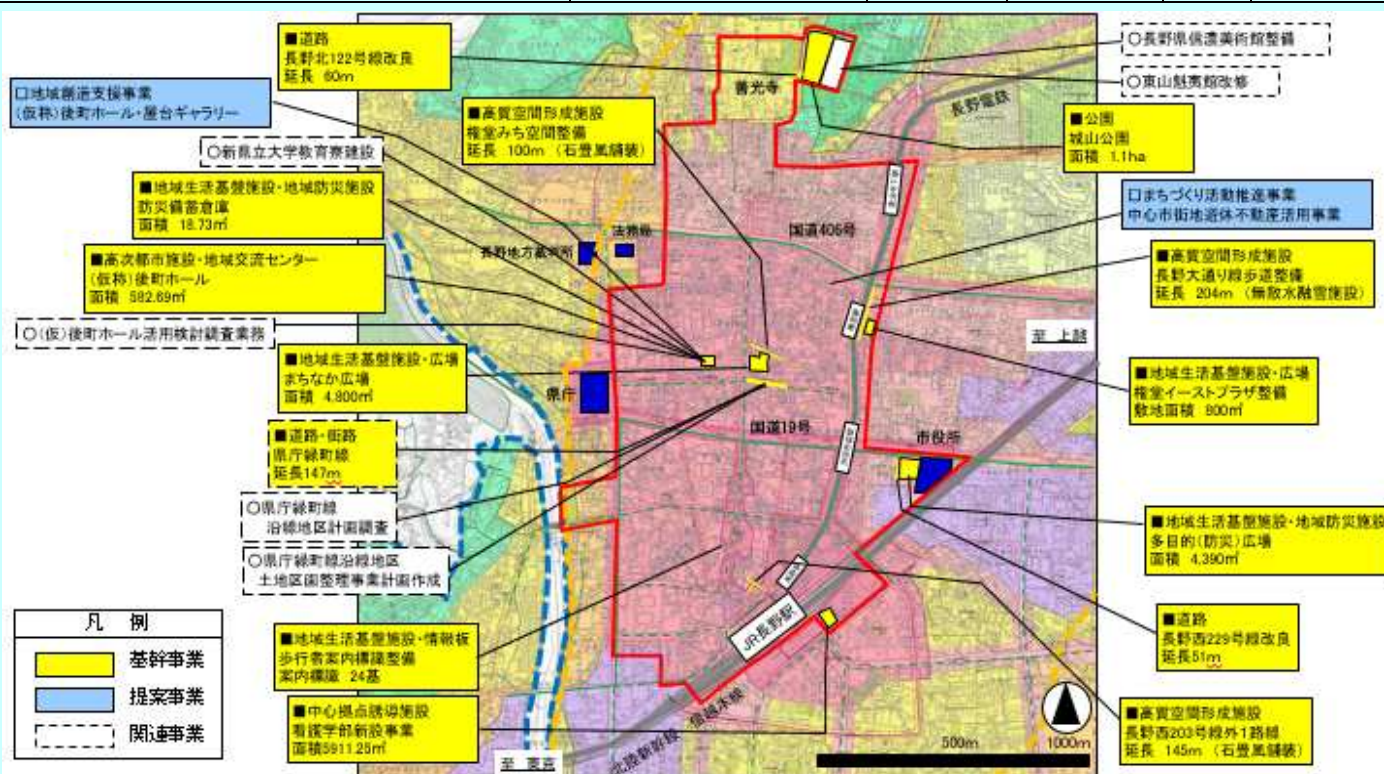
都道府県名	長野県		市町村名	長野市		地区名	善光寺表参道地区			面積	200.8ha	
交付期間	平成27年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和5年2月		交付対象事業費	2,412.3百万円	国費率	0.464			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
		基幹事業	道路(長野西229号線改良)、地域生活基盤施設(権堂イーストプラザ整備、歩行者用案内標識整備、多目的(防災)広場整備)、高質空間形成施設(野外彫刻ながのミュージアム、長野西155号線整備、長野西203号線外1路線整備、権堂みち空間整備、長野大通り線歩道整備、長野大通り線エスカレーター、長野大通り線エレベーター)									
		提案事業	中心市街地遊休不動産活用事業									
	当初計画から削除した事業		事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	高質空間形成施設(野外彫刻ながのミュージアム、長野西155号線整備、長野大通り線エスカレーター、長野大通り線エレベーター)				・野外彫刻ながのミュージアム:計画期間内の整備が困難なため。 ・長野西155号線整備:計画期間内の整備が困難なため。 ・長野大通り線エスカレーター:計画期間内の整備が困難なため。 ・長野大通り線エレベーター:計画期間内の整備が困難なため。		影響なし			
		提案事業	—				—		—			
		新たに追加した事業	基幹事業	道路(長野北122号線改良、県庁緑町線)、公園(城山公園)、地域生活基盤施設(まちなか広場、防災備蓄倉庫整備)、高次都市施設((仮称)後町ホール)、中心拠点誘導施設(看護学部新設事業)				・長野北122号線改良まちなか居住及び回遊性の向上を図るため。 ・県庁緑町線:回遊性の向上及びまちの活力・賑わいの創出を図るため。 ・城山公園:まちなか居住及び回遊性の向上を図るため。 ・まちなか広場:まちなか居住及び回遊性の向上を図るため。 ・防災備蓄倉庫:まちなか居住の推進を図るため。 ・(仮称)後町ホール:まちなか居住及びまちの活力・賑わいの創出を図るため。 ・看護学部新設事業:まちの活力・賑わいの創出を図るため。		長野北122号線:公園利用者数の目標値を増加 城山公園:公園利用者数の指標を追加 まちなか広場:歩行者・自転車数の目標値を増加 (仮称)後町ホール:地域交流センター利用者数の指標を追加 看護学部新設事業:歩行者・自転車数及び駅の利用者数の目標値を増加		
			提案事業	(仮称)後町ホール・屋台ギャラリー				・まちの活力・賑わいの創出を図るため。		影響なし		
	交付期間の変更	当初	平成27年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	歩行者・自転車数及び駅の乗車人員の目標値を増加						
		変更	平成27年度～令和2年度									

2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	居住人口	人	8,259	H26	8,260	R2	(R1) 8,539	(R3) 8,570	○	あり	市民生活を支える市庁舎へのアクセス 道路の整備や歩行空間の整備のほか 災害時の拠点となる地域交流センター の整備や公園、広場が整備されたこと で憩いや潤いのある緑の空間が生まれ たことに加えリノベーションによる遊休 不動産の活用など総合的な取り組みに よって居住地としての魅力向上に繋がり、 効果が発現した。		
										なし			
指標2	歩行者・自転車数	人／日	103,716	H26	104,170	R2	(R1) 107,142	(R3) 74,222	△	あり	● 新たな歩道整備や無散水消雪施設の 整備のほか、小路の美装化や歩行者 案内標識の整備によって安全安心な歩 行空間を確保できたことや地域交流セ ンターや美術館、看護学部や県立大学 学生寮などの都市機能の集積に加え 遊休不動産の活用促進によって、まち の回遊性向上がみられたが、新型コロ ナウイルス感染症拡大による施設等の 利用制限の影響のため、まちなかを回 遊する人が減少したことから、評価値 は参考とし、フォローアップで評価を実 施する。	令和5年9月	
										なし			
指標3	駅の乗車人員数	人／日	21,409	H25	21,450	R2	(H30) 20,862	(R3) 14,929	△	あり	● 看護学部や県立大学学生寮のほか屋 台ギャラリーや遊休不動産の活用など 地域資源を活かしたまちづくりが効果 を発現し減少傾向に歯止めがかかる傾 向にあったが、新型コロナウイルス感 染症拡大による公共交通の需要減と なったことから、評価値は参考値とし、 フォローアップで評価を実施する。	令和6年3月末	
										なし			
指標4	地域交流センター利用 者数	人／年	25,846	H27	28,300	R2	(H30) 36,071	(R3) 16,679	△	あり	● 市民活動の拠点となる中部公民館・後 町ホールの整備によって多彩な市民活 動が育まれ地域コミュニティが活性化し ていたが、新型コロナウイルス感染症 拡大による施設利用を制限したこと による利用者数の減となったことから、 評価値は参考値とし、フォローアップで 評価を実施する。	令和6年3月末	
										なし			
指標5	公園の入園者数	人	518	H29	941	R2	—	(R3) 1,141	○	あり	公園と美術館を一体的に整備したこと で、文化芸術・観光の拠点としての機 能が強化され、まちの魅力が向上した こと、また、善光寺境内から美術館へ 続く歩道を石畳に変え、歩行空間の高 質化で回遊性の向上が図られたこと に加え、城山公園のシンボルである噴水 を鑑賞型から親水型に改修し、公園の 魅力が向上したことで、賑わい創出の 効果が発現した。		
										なし			

	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1												
	その他の 数値指標2												
	その他の 数値指標3												
4)定性的な効果 発現状況	・まちあるきやリノベーション・シンポジウムにより、まちへの愛着や遊休不動産活用(リノベーション)への関心が向上しており、学生や若者のリノベーション物件への出店や居住が増えている。 ・多目的(防災)広場において、子育て支援、文化芸術振興、地域振興、交通安全啓発等に関するイベントが数多く開かれるなど、多目的機能を活かした活用がされることで賑わいの創出や交流の場として貢献している。また、広場に備えられているマンホールトイレやかまどベンチなどの設備を見学したいとの要望があり、防災研修の場として活用され、市民の防災意識の向上に寄与している。 ・屋台ギャラリーの整備を契機に隣接する県立大学学生寮の学生が「ながの祇園祭屋台巡業」に参加するなど地域の方々との交流や地域の文化に触れる機会となっている。 ・まちなか広場において、アーティスト、学生等によるステージ発表や飲食イベント等が開催されるなどイベント会場としての機能が活用されることで、中心市街地の賑わい創出に貢献している。 ・城山公園において、周辺地域の自主防災会が、大規模地震発生を想定した訓練を実施し、公園内に整備された防災設備の使用法の確認を行うなど、地域住民の防災意識の向上に寄与している。 ・地域コミュニティや交流を目的として善光寺境内で定期的に行われている「びんずる市」が、城山公園にも拡大し、地元農産物やキッチンカーの出店など、レクリエーション活動の場としての機能を生かし、更なる交流の場の提供とまちの賑わい創出に繋がっている。 ・景観に配慮した歩行者案内標識の整備により、周辺のまちなみ景観の向上に寄与している。												
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	居住人口	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				事業の効果を確認できたことから調査を終了する。		
	モニタリング	歩行者・自転車数	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				計画期間後も、モニタリングの手法を用いて定期的に指標の変化を確認していく。		
	モニタリング	地域交流センター利用者数	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				計画期間後も、モニタリングの手法を用いて定期的に指標の変化を確認していく。		
	モニタリング	公園の入場者数	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				事業の効果を確認できたことから調査を終了する。		
	住民参加 プロセス	まちなか広場 市民ワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				令和2年5月7日の施設供用開始に伴い終了。		
	住民参加 プロセス	中心市街地遊休不動産活用事業 ながの門前まちあるき	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				引き続き年24回程度の開催を予定		
	住民参加 プロセス	中心市街地遊休不動産活用事業 まちくらしでの会議	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				新型コロナウイルスの感染拡大状況によるが、今後も毎週水曜日の開催を検討		
	住民参加 プロセス	中心市街地遊休不動産活用事業 リノベーション・シンポジウム	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				新型コロナウイルスの感染拡大状況によるが、今後も年1回程度の開催を予定		
	住民参加 プロセス	後町ホール 市民ワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				平成30年4月1日から施設供用開始に伴い終了		
	住民参加 プロセス	城山公園再整備検討委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				いただいた意見を参考に実施設計に反映することができた。		
	住民参加 プロセス	城山公園 市民ワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 				いただいた意見を参考に実施設計に反映することができた。		
	持続的なまちづくり 体制の構築		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				 						

様式2-2 地区の概要

善光寺表参道地区(長野県長野市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:『門前都市「ながの」』～心潤う 歴史と文化が賑わう まち～ 目標1:善光寺門前町として、個性あるまちの魅力や地域資源を大切に、歴史と未来を感じられる『訪れたいまち』 目標2:長野の魅力である豊かな自然と歴史、都市機能が一体となった、潤いと利便性が共存する『住みたいまち』 目標3:市民の誇りであり長野の「顔」として、様々な機能と連携し、まちの活力・文化・歴史を物語る善光寺表参道を軸とした『歩きたいまち』 目標4:オリンピック等で培ったボランティア精神を継承しつつ、多様な市民活動を育むことにより、新たな文化を創造し、賑わいの絶えない『参加したいまち』	居住人口	人	8,259	H26	8,260	R2	8,570	R3
	歩行者・自転車数	人／日	103,716	H26	104,170	R2	74,222	R3
	駅の乗車人員数	人／日	21,409	H25	21,450	R2	14,929	R3
	地域交流センター利用者数	人／年	25,846	H27	28,300	R2	16,679	R3
	公園の入園者数	人	518	H29	941	R2	1,141	R3



まちの課題の変化	・看護学部の開設や県立大学学生寮の開寮のほか美術館や公園・広場の整備などに加え屋台ギャラリーの整備や遊休不動産の活用促進によってまちの魅力が向上した。 ・新たな歩道や無散水消雪施設の整備のほか小路の美装化や歩行者誘導サインの整備によって安全安心な歩行空間を確保した。 ・看護学部や学生寮、地域交流センターなどの都市機能の集積のほか遊休不動産の活用促進によってまちの回遊性の向上と歩いて暮らせるまちの形成が進んだ。 ・災害時の防災拠点としての機能を兼ね備えた都市公園や広場が整備されたことで、居住空間の魅力向上に繋がった。 ・居住地としての魅力向上に寄与する街路や広場整備などの進展に誘発されマンション建設が進んだ。 ・災害時の避難所となる地域交流センターのほか看護学部の開設や県立大学学生寮の開寮がまちなか居住の促進に寄与した。 ・遊休不動産活用推進事業を契機に門前界隈を中心に活用件数が増えてきておりまちなか居住の促進に寄与した。 ・看護学部や県立大学学生寮、美術館、公園や広場などの都市機能の集積が図られた。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・新型コロナウイルス感染症の影響が縮小してきたため、公園、広場におけるイベントの開催や地域交流センターでの交流の促進に加え、引き続き遊休不動産の活用促進を図ることで、まちの回遊性の向上を図るとともに、整備した歩道やサインの継続的な維持・補修による安全・安心な歩行空間を確保し、歩行者の安全性の向上を図る。 ・北陸新幹線沿線の都市を中心に善光寺の門前町として育んだ地域資源をまちの魅力として発信し、都市間交流の促進を図る。 ・拠点施設の新型コロナウイルスに対する基本的な感染対策を行い、利用者が安心して活動できる場を提供していくとともに、利用者の声を聞きながら施設運営の向上を図ることで、地域コミュニティの継続的な活動を促進する。 ・城山公園全体について、園内の広場や施設は生活動線となっている道路で分断され、公園機能の相互連携が求めている。また、施設の老朽化も課題であることから、令和2年4月に城山公園再整備基本構想を策定し、段階的に整備することで利用者の安全性や利便性、居住空間の向上を図っていく。 ・長野駅から新田町交差点周辺までの中央通りを軸とするエリアは、建物の老朽化や低未利用地の増加など多くの課題があり、「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」を策定し、官民連携によるまちづくりを進めていく。